

令和５年度 第１回

長野市社会福祉審議会 老人福祉専門分科会 会議録

日 時	令和５年５月３０日（火） 午後３時～午後４時２０分
会 場	長野市役所第二庁舎 １０階講堂
出席者	委員／〈会場〉 山岸委員、宮島委員、布目委員、岩下委員、寺田委員、長戸委員、山内委員、中村委員、山田委員、青木委員、黒岩委員、戸谷委員、宮本委員 〈ズーム〉 風間委員、小山委員 （所属、役職は別紙委員名簿のとおり） 事務局／ 臼井保健福祉部長、北原高齢者活躍支援課長、原地域包括ケア推進課長、齋藤介護保険課長、長澤保健所健康課長、富岡国保・高齢者医療課長 ほか 傍聴者２名

（議事録）

事務局 山岸会長	１ 開会 ２ 委員委嘱 ３ 会長及び副会長選出 寺田委員、事務局から提案を依頼 ・会長 山岸 明浩委員 ・副会長 宮島 孝夫委員 ４ 会議事項 （１）第十次長野市高齢者福祉計画・第九期長野市介護保険事業計画の策定について 資料に基づき、事務局より説明
	ただ今の事務局の説明について、委員より質問・意見はあるか。 説明にあった資料 No. １ - １ ３で国の基本指針に新しい内容が盛り込

	まれるとのことであるが、「○ 重層的支援体制整備事業による障害福祉や児童福祉などとの連携促進」が挙げられている。この老人福祉専門分科会と障害福祉あるいは児童福祉専門分科会との連携を図り策定するような計画案を入れる必要があるのか、若しくはほかの見通しがあるのか決まっていれば教えてほしい。
事務局	重層的支援体制整備事業については、現在福祉政策課を中心に検討を進めている。その体制を見ながら適切な計画への追加をしていきたい
山岸会長	福祉政策課で検討を進めているということであるが、それは本分科会の検討と合わせ進めていけるのか。
事務局	本計画と同様に令和6年度からの実施を目指し福祉政策課で検討を進めているので、時期はある程度合わせられると考える。
山岸会長	福祉政策課での検討状況も報告してもらいながら、分科会にも反映させていきたい。
小山委員	資料 No. 1 - 3 及び資料 No. 1 - 4 の感想と気付いた点であるが、資料 No. 1 - 3 3 頁の表に単位（人数）が欲しかった。4 頁の数字だけの表では意味がぼけるので割合（％）も入れてほしい。 令和2年度及び3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で正確な数字が表されていないことが判っている。特に認定調査については、コロナ禍による延長の特例により、この3年間認定調査をしなくてもそのままの介護度で延長が可能であった。そのため、今調査が大変忙しい。今後どのように認定数が増えていくのか、特に認知症の数はコロナ禍で外出できなかった人や、必要な支援を受けられなかった人に認知症が増えているという実感がある。次回9月の分科会ではそのあたりの数字を示せるよう期待している。 資料 No. 1 - 4 では、アンケートをしている。高齢者の増加について記載があるが、今後の長野市の計画の視点としては、ただ高齢者世帯が増えていくということだけではなく、高齢者をどう支えていくか、支え手側がどのくらい、どこに必要とされているのか、支え手の予備軍がどのような形にいるのかということを知る必要がある。そのため、資料の9,11の令和5年度の「上昇」していくという目標値を上げるためには具体的にどうすればよいかという視点での審議が必要である。
布目委員	資料 No. 1 - 3 に現在の高齢者の実績が示されているが、次期計画期間となる今後3年の高齢者の人口推計がどのくらい増えるのか、可能な限り示してほしい。ちょうど2025年問題が次期計画期間中に入ってくる。今後どれだけ高齢者や認知症の人が増えていくか等の傾向値をある程度つかみ、計画を策定していく必要がある。

事務局	将来にわたる人口推計は、計画を策定するにあたり必要である。現計画でも将来的な高齢者の人口増加見込みなど掲載しており、今後これを見直す形で現行の計画に即した内容に新たに検討してまいりたい。
山岸会長	この計画案の検討は、次回から本格的に始まるが次回示せるか
事務局	次回には推計を示したい。
宮本委員	私は三輪地区に住んでおり後期高齢者の一人である。地区の高齢者の実態等と資料 No. 1 - 1 3 頁 (3) - 3 見直しのポイントを考慮すると、私は、別紙 1 第 3 章にある「介護人材の確保と育成」についてが、一番今後の取組みに大切な項目であると考え。現行計画でその項目の内容を見ると、介護現場での自助努力やロボットの活用についてということが掲載されている。私の一つの提言としては、今沢山いる元気な高齢者のうち希望する者を介護人材の確保に充てるということがある。私も後期高齢者であるが、地域で自ら手を挙げ貢献している。具体的には三輪地区にある 8 か所の介護施設でマジックや腹話術、歌などの披露や、無償で包丁砥をするなどの介護の手伝いをしている。やろうと思えば何でもできる。計画策定の際は、「地域住民の活用について」を是非入れてほしい。今どこの介護施設でも人材が不足している。若者には仕事に魅力がないため、また、高齢者もそれぞれの家庭での老々介護があるから等で辞めてしまう。全国で辞めてしまう介護現場で働く人が年間 100 万人いるそうです。長野市も同様であると考え。令和 3 年度、長野県内では 1,500 人の介護人材が足りていないそうです。地域の元気高齢者を活用する仕組みづくりをこれからは是非実施してほしい。そうでなければやがて介護施設で働く人材が不足し、施設の建物はあっても利用者が入所できないという事態にもなりかねないと懸念している。
山岸会長	小山委員の意見から将来の推計を出すことで、相当する必要な支援者の数も見えてくる。前回の計画策定の際には、介護人材の確保について、勤務条件の改善を含む取組の検討してほしいという議論もあった。併せて宮本委員の意見では、見守り等に専門的な資格を持たなくても元気な高齢者を取り込むことが可能であるなら観点としては必要であると考え。
宮本委員	そこも含め、今後具体的な内容が出てきたところで議論しながら検討していきたい。
事務局	元気な高齢者が介護施設で働いた際、ポイント制にして報酬として品物と交換できるような有償ボランティアについても検討してはどうか。また、新聞に掲載されていたがボランティアをすることで介護保険料が軽減される市町村もあるようなので参考にしたい。
事務局	人材確保は非常に難しい問題であるが、優秀な高齢者の人材もたくさん

山内委員	いる中で、その発掘はこれから大切なことであると考え。今後計画策定の中で審議いただき、実現可能なものを計画になるべく落とし込んでいければと考えている。 現行計画には、高齢者虐待の項目があるが、今回の資料 No. 1 - 3 にはその項目がなかった。今後高齢者世帯が増加するということは、介護者による虐待件数は増えていくと考える。分科会で重点的に検討していくべき事案であるため、次回までに資料を追加し市の抱える問題について、もう少し議論を深めるべきであると考え。
事務局	高齢者虐待については、非常に課題となっている。数値については、今現在不明であるため参考にさせていただき可能な限り示していきたい。
山岸会長	委員から専門の立場でそういった数値はお持ちでないか
山内委員	長野市高齢者虐待ネットワーク運営協議会で毎回数値をいただき協議しているのでそちらの数値をそのまま利用してもらえかどうか。
山岸会長	いまの山内委員の助言を参考に、可能な限り次回の分科会で示してほしい。ほかに意見はあるか。
風間委員	計画期間である今後 3 年間の生産年齢人口や高齢者数などの年齢別増減が判る推計やグラフについても示してもらうことで、人材確保について計画するうえで有効であると考え。
事務局	推計値については、現行の計画でも掲載されているため示すことができる。
山岸会長	ほかに意見はないか ※質問・意見なし ないようであれば、本日、事務局から示されたスケジュール案によって、今後の策定業務を進めていただく。本日の意見等は、今後の策定過程において十分配慮していただくようお願いしたい。
事務局	(2) 老人憩の家の利用者負担の見直しについて 資料に基づき、事務局より説明
山岸会長	ただ今の事務局の説明について、委員より質問・意見はあるか。 ※質問・意見なし この件は、議題(1)の計画策定の答申までの経過とは別の動きになるの

事務局 布目委員	か。 状況に応じてではあるが、計画と同じ動きにしたいと考えている。 では次回以降の分科会でも計画策定と並行して審議を進めるということでしょうか。
事務局 布目委員	はい 第 1 回社会福祉審議会本会での案件の説明の際、利用者アンケートの結果を踏まえ検討していくという説明であったが、利用者アンケートの現状と次回までに結果報告があるのかを聞きたい。今後の公共施設見直しの個別施設計画の中で、老人憩の家は解体・民間譲渡が 2 施設、事後保全が 7 施設と打ち出しているが、この検討の進捗はどうなっているのか。今後、市全体では、施設の存続をどうしていくのかというところを見せて検討していく必要があると考えるが、そのあたりはどうなっているか。
事務局	老人憩の家のアンケートは次回の分科会で示せる。また、公共施設見直しの個別施設計画では、現状解体・民間譲渡が 2 施設、事後保全が 7 施設のままである。事後保全としていても、今後大規模な改修の必要が生じるようであれば運営できなくなる可能性もあるが、今後の見込みとしては現状維持で、それを踏まえた検討をお願いしたい。
布目委員	9 施設について、基本的には事後保全し小規模な改修を行いながら利用を続けることを大前提に利用料金の見直しを考える。 基本的なことであるが、解体・民間譲渡の 2 施設とはどこか。
事務局 山岸会長	新橋老人憩の家と茂菅老人憩いの家である。 大規模改修をせずに継続していくのはなかなか難しいところであるかもしれないが、各委員からアイデアをいただき今後検討していければと考える。 ほかに意見はないか。 ※質問・意見なし ないようであれば、本日出された意見等を参考に、次回以降もさらに審議していくこととする。
山岸会長	5 報告事項 (1) おでかけパスポート事業の見直しについて 昨年 10 月 4 日に諮問を受け、昨年度中第 1 回から 3 回にわたりこの老人福祉専門分科会で審議され意見をまとめた。 その結果について先程開催された社会福祉審議会に専門分科会の意見

事務局 山岸会長	として提出、承認された。事務局から説明をお願いする。 資料に基づき、事務局より説明 それでは、ただ今の御説明について、御質問・御意見はあるか。 ※質問・意見なし 報告であるため以上とします。
白井保健福祉部長 事務局	6 その他 ・保健福祉部長挨拶 ・今後の予定 - 第2回分科会 令和5年9月1日午後 - 第3回分科会 令和5年10月20日午後 の開催を予定している。 7 閉 会